

# ZEPHYROS

ゼフェロス No.26

The National Museum of Western Art, Tokyo 国立西洋美術館ニュース

ISSN1342-8071

オーギュスト・ロダン《最後の幻影》1903年、大理石、ロダン美術館蔵  
Musée Rodin (Photo Adam Rzepka/ADAGP)



ウジェーヌ・カリエール《母性》(部分) 1892年 油彩/カンヴァス  
シャルルヴィル＝メジエール市立美術館蔵

## ロダンとカリエール Auguste Rodin | Eugène Carrière

会期: 2006年3月7日(火)～6月4日(日)

主催: 国立西洋美術館/毎日新聞社/TBS

国立西洋美術館では、彫刻家オーギュスト・ロダンと画家ウジェーヌ・カリエールという19世紀後半から20世紀初めにかけて活躍した二人の芸術家に焦点をあてた展覧会を開催します。展覧会では、二人の直接の交流を軸に、批評家、詩人、政治家なども含んだ同時代のフランスの美術や社会の状況をも視野に入れて、それぞれの作品を紹介していきます。

ロダンとカリエールは、知り合ってからカリエールが亡くなるまでの20年以上もの間、もっとも親しい友人として親交を深めます。早い時期にアカデミックな美術教育を受けていたカリエールですが、1880年代後半から、その絵画は茶色を中心とした色数の少ないものとなり、柔



ウジェーヌ・カリエール  
《「医学」のための習作》油彩/カンヴァス  
プティパレ美術館蔵  
©Photothèque des musées  
de la ville de Paris/Pierrain

らかな光と影による立体描写へと向かいます。こうした彼の作品は、当時から、しばしば彫刻家の仕事、とくにロダンの大理石作品に比較されました。さらに本人たちは、立体と平面という形式の違いを越え、その芸術観についてたがいに共感を抱いていました。あくまでも対象を自然そのものに得ながら、そこに「内なる生」を見だし、想像によってそれに形を与えるのが真の「創造者」のなすべきことであるという思想は、ロダン、カリエール双方の根底に流れるものであったといえるでしょう。こうした考え方からも、ロダンとカリエールはとくに同時代の象徴主義の批評家たちの間で高い評価を得ることになります。

展覧会では、ロダンとカリエールの作品を分けてそれぞれ年代的に紹介するのではなく、いくつかの共通のテーマを設定し、あえて両者の作品をテーマごとに並置するようにしています。まずは、ロダンとカリエールをめぐるさまざまなエピソードからその共通の歩みをたどり、彼らを取りまく人物たち—芸術家、批評家、詩人、政治家など—をモデルにした肖像群を見ていきます。続いて、造形的な特徴として、量塊としてとらえられた人物群、背景と人物像の境界、ユゴーなど詩人たちと文学作品、形の反復、手やトルソの意味などの問題を取りあげます。

ロダンとカリエールの名前を冠した展覧会は、1896年にこの二人に画家ピュヴィー・ド・シャヴァンヌを加えた三人展がジュネーヴで開催された後、カリエール没後の1910年、パリの画廊で二人展の開催が企画されたことがあるだけです。それ以降、日本国内のみならずフランスでも、ロダンとカリエールの二人展は開かれておらず、今回国立西洋美術館で開催され、その後にオルセー美術館に巡回される本展が、ほとんど初めての試みといってよいでしょう。約100年のときを越えて再会した二人の芸術の、深淵な世界をお楽しみください。

(主任研究官 大屋美那)



オーギュスト・ロダン  
《「瞑想」と呼ばれる「内なる声」》  
1897年、ブロンズ、ロダン美術館蔵  
©Musée Rodin  
(Photo Bruno Jarret/ADAGP)

◆「ロダンとカリエール」展観覧料

一般	1,300円(950円)
大学生	900円(510円)
高校生	800円(450円)
中学生以下	無料
※ ( )内は20名以上の団体割引料金	

芸術家とアトリエ

the national museum of western art, tokyo

会期： 2006年3月7日(火)～6月4日(日)

芸術家たちが、まさに作品を作り出す現場であるアトリエ。それは、まるで「創造の秘密」を解き明かしてくれるものであるかのように、人々の興味を惹きつけてきました。フランスでは、19世紀の前半より、芸術家のアトリエ訪問記や、アトリエの様子を表した版画が、雑誌などのメディアに盛んに取り上げられるようになります。一方ではまた、アトリエにいる芸術家たちの姿は、揶揄の対象とされることも



オノレ・ドーミエ  
アトリエ風景2  
「(毎度おなじみの)自画像を描くフランス人」  
1849年 リトグラフ

あり、風刺画でたびたび取り上げられています。しかし、どちらも、一般の人々がほとんど目にする事のないアトリエの情景が、作家や作品の意味を示してくるものとして、いかに人々の好奇心を刺激し続けてきたかを示していると言えるでしょう。

今回の展示は、19世紀フランスを中心に、国立西洋美術館に所蔵されている版画や雑誌によって、アトリエの情景と、それへの関心のありようを展覧しようという企画です。雑誌『シャリヴァリ』に発表されたオノレ・ドーミエによる「アトリエ風景」や「芸術家」の連作版画には、アトリエを表したものが含まれ、これらはアトリエの芸術家を風刺的に描いた版画の代表と言えます。また、写真や版画による挿図を豊富に用いた雑誌『イリュストラシオン』には、たびたび「アトリエ訪問記」の連載が掲載されており、ルポルタージュ的にアトリエを扱ったものの代表となっています。これらの作品は、19世紀における人々の、芸術家のアトリエへの関心を教えてくれるとともに、また、今の私たちの好奇心も刺激してくれます。19世紀に芸術家たちはいったいどのようなアトリエで制作したのか。その制作の現場をご覧いただきたいと思います。

(主任研究官 田中正之)



オノレ・ドーミエ  
できごと399「絵画サロン開幕」週間前 コーラス  
「さあがんばろう、どんどんやっちゃおう、友だちはいつもそこにいるよ!」  
1857年 リトグラフ

- ◆常設展観覧料
- 一般…………… 420円 (210円)
  - 大学生…………… 130円 (70円)
  - 高校生…………… 70円 (40円)
  - 中学生以下…………… 無料
- ※ ( )内は20名以上の団体割引料金

## 「来館者と美術館の架け橋になりたい」

the national museum of western art, tokyo



クリスマスの始まりについて親子で絵本を見る様子

「来館者と美術館の架け橋になりたい」—この共通の思いを胸に集った19人のメンバー。それが国立西洋美術館のボランティアスタッフです。たまたま女性ばかりですが、幅広い年代、さまざまな職業、職歴を持ち、ボランティア経験も豊富な多彩な人材が揃いました。

主な活動内容は3つあり、①ファミリー向け鑑賞用教材“びじゅつー”の貸し出し、②ファミリー向け体験型プログラム“どうびじゅつ”、③学校の児童生徒向けの対話型トーク（スクール・ギャラリートーク）を行っています。その他、美術館で行われる様々なプログラムの補助もしています。

12月には、ファミリー向けプログラムとして『美術館のクリスマス』を催しました（17、18日の午前・午後、計4回）。キリストの降誕日であるクリスマスに因んで、当館が収蔵する中世末期以降のキリスト教を主題とした宗教画をじっくり鑑賞した後、ロビーに設置のクリスマスツリー用のオーナメント（飾り）を作る2時間半のプログラムです。導入ではクリスマスの始まりについての物語絵本の読み聞かせも行いました。

通常とは違った切り口で美術館の収蔵作品を見る、作品を作る。プログラムの過程で見せる子供達の生き生きとした表情、家族の楽しげなやりとりにボランティアとしてのやりがいを感じています。ときには収蔵作品について突っ込んだ質問も。大人が思う以上に作品を深く理解した子供達の発言にも驚かされるなど、充実した時間を過ごしています。

（ボランティアスタッフ 里 広江）



オーナメントをてっぺんに！  
「ん～届くかな？」

「ロダンとカリエール」展に関連して下記のプログラムを実施しますので、ぜひご参加ください。

## ◆記念講演会

- ① 3月7日(火) 13:00~15:30 **2月21日締切**  
 アントワネット・ル・ノルマン・ロマン(パリ、ロダン美術館主任学芸員)  
 「ロダンと『偉大なる芸術家のアトリエ』」  
 エマニュエル・エラン(パリ、オルセー美術館学芸員)  
 「19世紀フランスにおけるロダンとカリエール」(仮題)
- ② 4月15日(土) 14:00~15:30 **4月1日締切**  
 小倉孝誠(慶應義塾大学教授)  
 「ロダン、カリエールと同時代の文学」(仮題)
- ③ 5月20日(土) 14:00~15:30 **5月6日締切**  
 大屋美那(国立西洋美術館主任研究官)  
 「1890年代のロダンとカリエール」

会場	国立西洋美術館講堂
定員	145名(聴講無料。ただし、展覧会の鑑賞については別途観覧券が必要です。)
応募方法	往復はがきに、希望日(はがき1枚につき1講演のみ)、氏名(1名様限り)、住所(返信にも)、電話番号をご記入の上、下記の宛先にお申し込みください(締切日の消印有効)。 *応募者多数の場合は抽選になります。
宛先	〒110-0007 東京都台東区上野公園7-7 国立西洋美術館「ロダンとカリエール」展 講演会係

## ◆スライドトーク

当展覧会の見どころや主な作品について、夜間開館を行っている下記の金曜日にスライドを使って解説を行います。

日時	3月24日(金)、4月7日(金)、4月21日(金)、5月12日(金)、5月26日(金) 毎回18:00~(約40分)
解説	近藤真彫(駒澤大学非常勤講師)
会場	国立西洋美術館講堂
定員	先着145名(展覧会観覧券が必要です)。 *直接講堂にお越しください。

## ◆レクチャーコンサート

- 日時：5月3日(水) 18:00~20:00(17:30開場)  
 「音楽における現実の幻視者 — トビュッシーとショーソン」  
 企画・トーク：瀧井敬子(東京芸術大学演奏芸術センター助手)  
 演奏：ジュラール・プーレ(ヴァイオリン・東京芸術大学客員教授)、川島余理(ピアノ)、その他  
 場所：展覧会会場ロビー(地下2階)  
 定員：100名

\*詳細については、追って当館ホームページ等でご案内します。

# 展示カレンダー [企画展示/常設展示] 2006年2月～2006年7月

## 常設展示 (本館・新館)

ロダンの彫刻と、中世末期から18世紀末頃までのオールド・マスターの絵画を本館で展示しています。新館では、モネ、ルノワールなどのフランス近代絵画を中心に19世紀半ばから20世紀の絵画を展示しています。

休館日  
土日・祝日

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
2 FEBRUARY	常設展示 (一部リニューアルした展示をご鑑賞ください。)																											
	Fun with Collection 2006 (常設展示室) いろいろメガネPart2-みんなの見かた紹介します																											

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
3 MARCH	● ロダンとカリエール (企画展示室) 3月7日 (火)～6月4日 (日)																														
	● 「芸術家とアトリエ」 (新館2F版画素描室) 3月7日 (火)～6月4日 (日)																														
Fun with Collection 2006 (常設展示室) いろいろメガネPart2-みんなの見かた紹介します																															

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
4 APRIL	● ロダンとカリエール (企画展示室) 3月7日 (火)～6月4日 (日)																													
	● 「芸術家とアトリエ」 (新館2F版画素描室) 3月7日 (火)～6月4日 (日)																													
Fun with Collection 2006 (常設展示室) いろいろメガネPart2-みんなの見かた紹介します																														

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
5 MAY	● ロダンとカリエール (企画展示室) 3月7日 (火)～6月4日 (日)																														
	● 「芸術家とアトリエ」 (新館2F版画素描室) 3月7日 (火)～6月4日 (日)																														
Fun with Collection 2006 (常設展示室) いろいろメガネPart2-みんなの見かた紹介します																															

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
6 JUNE	● ロダンとカリエール (企画展示室) 最終日6月4日 (日)																													
	● 「芸術家とアトリエ」 (新館2F版画素描室) 最終日6月4日 (日)																													
Fun with Collection 2006 (常設展示室) いろいろメガネPart2-みんなの見かた紹介します																														

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
7 JULY	● Fun with Collection 2006 (常設展示室) いろいろメガネPart2-みんなの見かた紹介します																														

※ 展覧会名、会期、内容等は変更されることがあります。

### 国立西洋美術館

- 所在地…〒110-0007 東京都台東区上野公園7-7
- 開館時間  
通常…午前9時30分～午後5時30分 (ただし、秋の企画展開会日以降の開館日から春の企画展開催日までの開館期間中＝午前9時30分～午後5時)  
毎週金曜日…午前9時30分～午後8時 (入館は開館の30分前まで)
- 休館日…月曜日 (ただし、月曜日が祝日あるいは振替休日となる場合は翌火曜日) 年末年始 (12月28日～翌年1月1日)
- 常設展無料観覧日…毎月第2、第4土曜日と文化の日 (11月3日)
- お問い合わせ…ハローダイヤル:03-5777-8600  
<http://www.nmwa.go.jp/>

※ 誌名について…「ZEPHYROS」(ゼフュロス) はギリシャ神話の神々のひとり、西風を司る神様の名前です。西欧では暖かさや色ざまだまの花々を運ぶ春の風をさします。

ZEPHYROS

**ZEPHYROS 第26号**

編集・発行 国立西洋美術館/平成18年2月20日(年4回発行)  
協力(財) 西洋美術振興財団  
印刷 (株) アイネット